第25回椹野川河口域・干潟自然再生協議会会議の要旨

１　日　時:平成31年2月16日(土) 9:00～12:00
２　場　所：山口県セミナーパーク　社会福祉研修室
３　出席者：44人（別紙のとおり）
５　概　要
(1)　議事
①　2018年度の活動について
ア　南潟における二枚貝モニタリング結果等について　…資料1
環境保健センター　環境科学部　川上専門研究員
・南潟において四半期ごとに行われている二枚貝モニタリング結果について報告があった。本年度設置した被覆網でもアサリの生育が確認されており、全体的にも比較的良好。
・その他、被覆網に付着した海藻がアサリの生育に影響を与えるかの検証（被覆網の定期的な交換が必要か)、「鉄筋網」の効果検証について報告があった。
イ　2018年度自然再生報告書（案）等について　…資料2、リーフレット案
・本年度に実施された活動等について説明。報告書は、4月20日の会議で最終版を配布予定。
・協議会の紹介用リーフレットを作成中。3月中に印刷する予定。
②　地域循環共生圏構築事業について
ア　ふしの干潟いきもの募金について　…資料3
・募金の状況、募金の運用方法等について説明。
・本年度に収受した寄付は約173万円。アサリ等の販売利益や潮干狩りイベントの参加料の一部が県漁協吉佐支店山口支所から寄付された。募金箱は、道の駅等の16施設に設置。また、あいおいニッセイ同和損保から150万円の寄付を受けた（3箇年継続の予定)。
・この寄付金により、2019年度の委員の活動を支援する(資料3の4ページ～)。
・募金委員会委員、監査、ワーキンググループリーダーの就任について、資料のとおり承認された。
イ　公開報告会について　…資料4
・3月12日に環境省事業の公開報告が開催される。参加希望の方は、事務局に連絡してほしい。
③　2019年度の活動について　…資料5
ア　年間活動計画について
・大きなイベントとして、4月20日に例年の椹野川河口干潟再生活動＋協議会会議、6月1日に海岸清掃（NPO法人野鳥やまぐちが主催）が開催される。

イ　椹野川河口干潟再生活動について

・4 月のイベントで実施する干潟耕耘、被覆網の設置方法等について協議。

・漁協は、年度中に 11 回アサリを漁獲し、約 450kg を道の駅等で販売した。全体の収穫量は、746kg で過去最高の量となった。

・本年度のイベントでは、冠水時間の長い沖側を耕耘し、被覆網を設置した。しかし、収穫したアサリを岸まで運ぶのがかなり大変。

・次年度は、なるべく岸側を耕耘し、条件が良く、効率的な地点に被覆網を設置したい。

(2)　相互連携協定締結式

・協議会、あいおいニッセイ同和損害保険（株)、あいおいニッセイ同和山口支店プロ会、山口県環境生活部、山口市で「椹野川流域及びその周辺における環境保全活動等に関する相互連携協定」を締結することとなり、調印式を行った。

・出席者は次のとおり。

椹野川河口域・干潟自然再生協議会　会長　浮田　正夫　氏

あいおいニッセイ同和損害保険（株）山口支店　支店長　寺尾　直樹　氏

あいおいニッセイ同和山口支店プロ会会長　川野　敏昭　氏

山口県環境生活部　部長　佐伯　彰二

山口市環境部　部長　有田　剛　氏

・あいおいニッセイ同和損害保険（株）山口支店の寺田支店長から浮田会長に、寄付金の目録が贈呈された。

(3)　学術研究・活動報告

①　瀬戸内海西部の干潟域における肉食性巻貝と二枚貝の分布と捕食－被食関係

水産大学校生物生産学科沿岸生態系保全研究室　安田　風眞　氏（院生）

・南潟及び中津干潟において、干潟に生息する代表的な肉食性巻貝（アカニシ、ツメタガイ等）と同じ生息環境に存在する二枚貝の分布と密度を調査。

・アカニシは転石帯に高密度に分布し、マガキやアサリ等を捕食。ツメタガイは、砂泥地のみに分布し、アサリ等を捕食。

・南潟の二枚貝の分布状況を調査。

・次年度は、貝の殻の厚さ等と捕食の関係性についても調査を行う。

②　アカニシ *Rapana venosa* およびサキグロタマツメタ *Laguncula pulchella* による二枚貝への摂餌選択性

水産大学校生物生産学科沿岸生態系保全研究室　大野　貴弘　氏（4 年生）

・目的は、肉食性巻貝における二枚貝の摂餌選好性を明らかにすること。

・肉食性巻貝は、ユウシオガイ、シオフキ及びヒメシラトリを積極的に選好し、オキシジミ及びハマグリを避ける傾向にあった。

・殻の厚さが選択率を決定していることが推測された。

・サキグロタマツメタは、マガキを捕食できなかった（捕食行動の稚貝が影響？）。

・今後、二枚貝の外部形態の違いと選択性について検証する。

③　山口湾干潟におけるトラフグ稚魚の食性ならびに炭素・窒素安定同位体比
瀬戸内海区水産研究所生産環境部干潟生産グループ　重田　利拓　主任研究員

・トラフグの資源回復・再生に寄与するため、稚魚の食性と炭素・窒素安定同位体比を調査。
・マテガイは、トラフグの餌として圧倒的に重要な資源であり、57.2%を占める。
・トラフグの主な餌資源はマテガイ等の二枚貝であり、主な炭素源は海域の植物プランクトン起源と推定された。

④　線虫を使った干潟評価
瀬戸内海区水産研究所生産環境部干潟生産グループ　辻野　睦　主任研究員

・線虫の生息状況は、農地等で土壌評価の指標として活用されている。
・干潟において、線虫とマクロベントス（ほとんどアサリ）量に相関がみられた。
・被覆網を設置していない地点の線虫量は、500 個体/10cm^2。
・被覆網下では、線虫の量が増加。有機物量、ベントス量の増加が影響していると考えられる。
・底質の還元性が高くなると、大型サイズの線虫の割合が高くなる。

⑤　山口湾におけるクロツラヘラサギの保全事業について
NPO 法人野鳥やまぐち　原田　量介　理事

・本年度から、きらら浜自然観察公園において、サントリー世界愛鳥基金の助成を受け、クロツラヘラサギ(環境省レッドリスト絶滅危惧ＩＢ類)の保全事業を開始。
・県内外から受け入れた傷病鳥を保護・リハビリさせるためのケージが 11 月に完成した。
・傷病鳥の野生復帰を目指すとともに、将来的に山口湾が日本初の繁殖地となり、ラムサール条約湿地に登録されることを目指している。
・次年度は、協議会と連携した海岸清掃の実施、国際シンポジウムの開催、越冬地の視察等を実施予定。